

平成 17 年度病害虫発生予察特殊報第 3 号

平成 18 年 3 月 9 日
静岡県病害虫防除所長

対象病害虫名 トルコギキョウ葉巻病

病原ウイルス：Tomato yellow leaf curl virus(TYLCV)

対象作物 トルコギキョウ

1 発生概況

- (1) 平成 16 年には湖西市の 1 農家にて、平成 17 年には磐田市の 1 農家にてトルコギキョウの葉巻症状株が確認された。
- (2) 農業試験場にて遺伝子診断(PCR-RFLP)法で検定したところ、Tomato yellow leaf curl virus(TYLCV)と確認され、トルコギキョウ葉巻病であることが明らかとなった。
- (3) 県中部、東部地域で発生は確認されていない。
- (4) 本病害は九州や四国(長崎、佐賀、宮崎、熊本、福岡、高知県)、愛知県で確認されている。
- (5) 今回検出された病原ウイルスは上記の県で確認されている九州系統(TYLCV-Is)の病原ウイルスとは異なり、東海地域のトマトで発生しているマイルド系統(TYLCV-Is-M)である。

2 病徴

- (1) 発病株は節間が伸びず、萎縮する。
- (2) 葉は葉表側に巻き、葉脈が浮き上がり、舟形化する。
- (3) 葉の縁が黄化することがある。

3 伝染方法

- (1) 本ウイルスはトマト黄化葉巻病の病原ウイルスと同一であり、シルバーリーフコナジラミにより媒介される。
- (2) 汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、アブラムシ伝染はしない。

4 TYLCV-Is-M に感染が確認されている植物

- (1) トマト、トルコギキョウで感染が確認されている。
- (2) 感染する可能性がある植物はナス科植物(タバコ、チョウセンアサガオ)、キク科植物(ヒヤクニチソウ)である。

5 防除法

- (1) 媒介虫であるシルバーリーフコナジラミを徹底防除する(表参照)。
- (2) トマト黄化葉巻病の発生地域(家庭菜園を含む)では感染が拡大する可能性があるので注意する。
- (3) 天窓や側窓に 1mm 目以下の防虫ネットを張り、本虫の侵入を防ぐ。
- (4) 発病株を放置すると媒介虫が増加するため、確認次第抜き取ってビニール袋に密封し、完全に枯死させる。
- (5) 本虫は雑草でも増殖が可能であることから、密度を下げるため、ほ場周辺の除草を徹底する。

表 シルバーリーフコナジラミおよびコナジラミ類に登録のある薬剤

薬剤名	適用病害虫	農薬使用基準	
		希釈倍率	使用時期 - 回数
アクタラ顆粒水溶剤	シルバーリーフコナジラミ	2,000倍	発生初期 - 6回
ベストガード水溶剤	コナジラミ類	1,000倍	発生初期 - 4回
チェス水和剤	コナジラミ類	3,000倍	発生初期 - 4回